

イタリアンライグラスを作るならこれに限る

# 3割以上も増収の大型種 マンモスイタリアンライグラス

葉や茎が大きく太い——病気にも日でも強い——  
—収量が多いのは当然です。施肥が充分であれば寒地  
春まきでも反収7~10トが楽に収かくでき、暖地秋ま  
きでは15~20トを生産している例がたくさんありま  
す。

暖地寒地いずれでも好評、多収性と利用価値の優  
れたマンモスイタリアンを御利用下さい。

## 特徴と特性

(普通種のイタリアンライグラスに比べて)

- 1 草丈高く、葉長長く、葉幅も広い、一見して巨  
大型。
- 2 初期生育は同程度だが、再生力旺盛で、刈取ご  
とに増収を示す。
- 3 草姿はやや横に広がるが、風雨による倒伏は普  
通種より少なく、分けつも多い。
- 4 他の牧草との混播にも適し、青刈、乾草、サイ  
レージいずれに用いても良い。
- 5 糖分含量が多く、家畜の嗜好性は非常に良い。
- 6 早ばつや病気に対して強く、夏枯れの被害が少  
い。
- 7 暖地の肥沃地では早春まきをすれば2~3年に  
亘って利用出来る。



## 各地におけるイタリアンライグ ラの耕種基準例

○熊本県 早期稲跡地のイタリアン利用の場合、播種期は  
8月下旬~9月上旬で、10 宛当播種量2~2.5キ、40~60 芽  
の条播としてコンモンベッチとの混播が有利で、施肥量は  
堆肥1,200キ、硫安30、過石20、加里7キ、11月中旬~12月、  
2~3月、4~5月と刈取利用出来ます。

○岡山県 播種期9月中下旬、播種量3.5キ、水田中播撒播  
で11月下旬より6月中旬迄5回の刈取で実に19トの青刈  
をあげています。これは牛尿を多施し、窒素70キ、磷酸20  
キ、加里80キという多肥栽培です。

○愛知県 播種期は9月下旬、水田裏作に赤クロパー、レ

ンゲなど荳科と混播し2回刈で反収5,000キ、3回刈で  
7,500キ程度の収量をあげています。そして6月下旬の田  
植までに充分飼料生産に役立たせております。特に目立つ  
ことは追肥で、基肥、尿素10、熔燐20、塩加5、堆肥4,000  
キに対し、更に追肥で尿素35、熔燐30、塩加10キという  
多肥栽培で多収を得ております。

○山形県 播種期は9月で早い方が収量は多くなっていま  
す。水田の中播撒播で播種量は単播2キ前後、レンゲの混  
播ではイタリアン1.5キ、レンゲ2キ、肥料は基肥を施せ  
ないので稲刈直後硫安4、過石4、加里4キで、3月10日、  
硫安4、過石4、加里8、4月10日、硫安8キを施し生草  
量は6.8トを得ています。暖地でも同様ですが、東北地方  
では特に水田の排水を良くしなければ好結果が得られませ  
ん。